

一般社団法人海外鉄道技術協力協会=著

KISS-RAIL 2.0

これからの海外都市鉄道

—計画、建設、運営—

2020年3月発行
 本体4,000円+税
 ぎょうせい
 ISBN 978-4-324-80102-4



正司健一
 SHOJI, Kenichi

神戸大学名誉教授

いうまでもなく鉄道は、限られた空間でも、非常に大量の乗客を安全かつ正確、迅速に輸送できる点で、他の追随を許さない交通手段である。そのため多くの都市で都市鉄道が圏域における基幹的交通機関として大きな役割を果たしてきている。しかしながら、とくに開発途上国では、その都市鉄道が整備されてなかったり、鉄道があっても昔ながらの運行スタイルだったり、鉄道の持つ力を都市交通問題解決に活かしていない事態が続いていた。都市鉄道を導入、活用しようとしても、その整備・維持・拡充に必要な知識やノウハウが蓄積されていないばかりかその経験さえほとんどない状況であった。これに応えるものとして、国土交通省の「インドネシア、フィリピン及びタイにおける都市鉄道建設及び改良のための共同調査委員会」(委員長: 森地茂東京大学大学院教授(当時の肩書))でまとめられた事業化マニュアルをベースとして、KISS-RAIL: Keys to Implement Successfully Sustainable Urban Railwaysが2005年に英語で出版された。

これを初版とし、ここ15年間でアジア各国での都市鉄道プロジェクトを通じて得られた知識も加え、全面的に加筆修正して作成して出版されたのが、本著『これからの海外都市鉄道: 計画、建設、運営』である。その内容は副題にもあるように、まさに都市鉄道プロジェクトの計画から建設、そして運営といった一連のタスクのすべてを網羅したものとなっている。

本著は序章、終章を含めると13章からなり、よりよい都市鉄道実現にとって重要な各種テーマが扱われている。できることならその内容を順次紹介していきたいところだが、誌面制約のためそれが適わないのが非常に残念である。そこで章タイトルだけを順に紹介すると、都市鉄道の成立条件、プロジェクトの計画から工事着手まで、事業の評価、都市鉄道システムの計画と設計、財源の調達と財務、運営方式の設計、地域開発との連携、輸送のシームレス性と統合性の確保、建設の実行、都市鉄道の持続的オペレーション、収益増加の方策とな

る。これらを眺めるだけでも、いかに広範なテーマがとりあげられているかがわかる。

併せて全部で48点のコラムが収録されており、そこには多くの経験や事例が書かれ、それも成功したものだけでなく失敗のケースも紹介されていて興味深い。さらに付属資料が11点掲載され、「アジア各都市における都市鉄道整備の現況」「日本のODA及びJBC等の政府系金融方式」といったデータ的なものから、「地下鉄の創生と世界展開を俯瞰する」「わが国の大手民鉄の附帯事業への取り組み」をはじめとした興味深い分析まで、その内容も多彩である。

初版が英語での出版であったので、日本語版としては今回がはじめてになる。持続可能な都市鉄道システムを成功裏に実現するために必要な多様な論点が手際よくまとめられているだけでなく、海外の関係者がどのような点に関心、疑問をいただき、そして不足しているかを知ることでもでき、本テーマに関心を持つ方々には、ぜひ一読することを薦めたい。

どのような良書でも完璧なものはないといわれているように、本著も若干の課題は残されている。例えば、一冊の中に多様なテーマが包摂されているため、個々の論述に紙幅の制約があることが伺え、読者のなかには情報不足を感じられる人がいるかもしれない。各テーマについて、より深く学びたいと考えている人のための参考文献情報が記載されていれば、その価値はさらに高まっただろう。

わが国都市鉄道の特徴の一つでもある緩急接続を活かした運行システムの有用性と重要性への言及がみあたらないことも、評者が秒単位の正確さとともに、海外の研究者や政策担当者、技術者から高く評価され、また質問をよく受けたことだけに残念であった。それ以外にも説明不足や日本の事例にとらわれた叙述といった点も一部にはみられる。しかしこれらの指摘は評者としての役目故のもので、本書の価値をいささかも損なうものではまったくない。